

トルドー首相が来日

長期的な日加協力を強調

トルドー首相が一月十六日から十九日まで来日、環太平洋国同士として日本との多角的かつ長期的な協力強化を呼びかけるとともに、将来に及ぶカナダ資源の対日安定供給を約束した。また日本の対加投資とカナダ産工業製品の輸入増大を要請し、さらに保護貿易主義を防止する必要性を強調した。

首相はASEAN（東南アジア諸国連合）五か国およびアルネイを歴訪したのち来日したもので、中曽根首相と二度にわたって会談したほか、日加経済人と懇談し、日加協会と在日カナダ商業会議所共催の夕食会であいさつした。また滞在中、一緒に来た息子のサッシュヤ君（九歳）と箱根で一泊し、さらに相撲を見学するなど、日本を楽しんだ。

中曽根首相との二回目の会談のあと、トルドー首相は日本記者クラブで内外記者と会見、この中で会談の内容などについて、要旨次のように述べた。

一、中曽根首相との会談では、日加間の自動車問題、日本の対加投資およびカナダの対日投資、第三国投資などの合併事業の可能性、石油関連事業における日本の対加投資などについて話し合った。

またわれわれは保護貿易主義の危険性を討議し、保護主義を防止する必要性を強調した。さらに日本、米、カナダが環太平洋地域における経済大国であるという認識に立って、今後、長期的に太平洋の視点をもつべきだということを話し合ったほか、ASEAN地域の経済的、戦略的、政治的問題についても意見を交換



会談するトルドー、中曽根両首相

した。

一、（日本が米、国などに配慮して、カナダからの輸入を減らしてその分を他国に振り向ける、という懸念について）その懸念は在日カナダ人実業家との懇談でもあった。中曽根首相にその点を具体的に確かめたところ、その懸念は理解しているとのことだった。こうした振りかえはないとの確約をした、と受けとっていいだろう。

一、中曽根首相は高度技術に関してカナダの技術と能力をよく認識しており、具体的にカナダとのいくつかの協力をあげた。そのひとつはキャンドウ炉で、首相はキャンドウ炉を高く評価していると言った。また安倍外相も同じ趣旨のことを述べ、キャンドウ炉の検討を継続する予算を計上していることを明らかにした。

一、私は中曽根首相に対し、カナダが日本の対加投資を歓迎していることを伝えた。カナダへの外国投資はカナダ経済に有益でなければならぬという条件があり、またカナダの資金を借りてカナダ企業を買収するような外国投資は認めないが、それでも投資申請の九〇ないし九五パーセントは認可されている。

一、日本は経済大国のひとつであり、NATO（北大西洋条約機構）諸国が日本のような大国の見解を無視して東西間の重要問題を協議するのはノーマルでない。私は中曽根首相に対し、核兵器、中距離核戦力などの問題を含め、東西間の重要問題について日本の見解をわれわれに知らせてくれるよう、要望した。サミットで日本がこうした問題に関する討議に参加する機会ができるよう、希望する。

一、ASEAN諸国は、日本が自国とその近海に対する防衛能力を増強するために武装するべきだという認識はあるが、それ以上の軍備については懸念している。また夕食会のあいさつでは、日加関係の長期的な重要性にふれ、カナダが今後とも日本の必要とする原料や食糧を供給することを約束するとともに、次のよう

に述べた。

「カナダ経済を進展させるには、こうした資源の加工度を上げ、できるだけ最終製品の形で輸出する必要がある。カナダは日本がこれらの製品に安定した市場を提供し、またカナダにおけるこのような製造業の発展を促進するための資本および技術を提供することを歓迎する。日本の工業製品はカナダの国民生活に大いに役立つが、日本はカナダの工業品および輸出する必要性についても、常に念頭においていただきたい……」

シックス・エンド・ファイブ

カナダ政府の賃金物価抑制政策。

政府は、八二年六月末に提出した予算書の中で、連邦政府、公社などの職員や軍人の以後一年間の賃金上昇率を六パーセント以下に、今年の六月末から一年間の上昇率を五パーセント以下に抑えるガイドラインを発表すると共に、各州および民間企業にも同様の措置を取るよう要請した。この「シックス・アンド・ファイブ賃金抑制ガイドライン」は、連邦政府が管理する価格や料金にも適用されている。ガイドラインの目的は、インフレ（昨年六月の消費者物価指数は前年同月比一一・二パーセント）対策であるが、インフレはその後も高水準で移行し、今年一月になって、前年同月比八・三パーセントと、ようやく四年前のレベルに戻った。